【緊迫の1/7宮井宅急襲！その実況】

- 1：宮井宅は静まり返っている。「宮井●」の表札を戸田・執行官・立会人の3人で眺め回して、薄れている●の文字がなんという文字かをあれこれ言い合い、一応の結論に達する。執行官がチャイムを押すが反応無し。
やはり留守か、と皆が思ったその時に、老人男性が出てきた！
執行官が来訪要件を告げ、相手を確認すると、宮井将の父親である事をすぐに認めた。その名前は先ほど3人が同意した読み方だった。
- 2：執行官が「宮井将さんはいますか？」と問うと、父親と名乗った人は「ああ、いますよ」と回答。何と平日の午後2時に宮井将は在宅していた！
ずっとこの家に同居している事も判った！
- 3：執行官の求めに応じて父親が息子を玄関に呼んだ。
★そして宮井将が玄関に出てきた！！当初予測を上回る大成果だ！
- 4：出てきた宮井は裁判の時のバリッとしたワイシャツネクタイ、スーツ姿とは打って変わって、カウチポテト族みみたいな、ダラッとした部屋着姿だった。裁判の時は不動産業界で仕事しているみたいな感じだったが、1/7急襲では平日の午後2時に家でダラダラしている暇人のように見えた。
(こいつ仕事してるのか？ 40を越えても家で親のすねかじりか？
それとも「室内ビジネスマン」か？)
- 5：色白で黒い山羊ヒゲの宮井は、強制執行に3人でやって来た事に驚きつつも、そこは「息を吐くようにウソをつく」ザイトク活動家。開口一番、「1月10日に送金する予定でした」とか、「控訴したので取り立てはないと思っていた」とかをスラスラとしゃべる。
- 6：しかし戸田は12月の24・25支払い請求文書で「12/27(金)までに、全額現金書留で送金せよ」、「期限内に送金がない場合は最後の1円まで苛烈に、何度でも取り立てを行なう！」と通告しているのだから、「控訴したので取り立てはないと思っていた」は全くのウソだし、「1月10日に送金する予定でした」というのも、このすぐ後に「1月末までには必ず送金します」と変化するのだから、これもウソだった！
■「とっさに真顔でシラッとウソをつく」才能だけは豊富なようだ。
- 7：執行官と民間立会人の2人だけが宮井の個室に立ち入って、中を見る事になった。10分くらいして執行官らが出てきた。
予測通り、「室内に差し押さえすべきモノは何もないので、差押え不能」という結論だった。
パソコンはあっただろうが、今は個人データを尊重してパソコンの差押えはダメだし、プリンターがあっても金銭価値無しと見なされるようだ。
テレビがあっても、テレビは「生活必需品」扱いになるとのこと。
- 8：戸田としては、「それなら(預金調査や車調査などの)次の段階だ！」と意気込んだのだが、宮井が「1月末までに全額書留で送金します」と執行官に申し立てたため、執行官としてはそれを了承して解決する道を選んだ。(差押え物が無く、本人が支払うと約束する以上、やむを得ない)
- 9：ただし、支払い金額には12/24段階の合計7万7438円に加えて、12/25以降の利息(1日あたり8.94円：小数点3位以下切り捨て)と今回執行官らが出張って来た事の費用6944円が加算される。これを執行官が説明し、戸田から数字メモも渡して宮井に確認させた。
(※1/7時点では8万4507円になる)
宮井の父親は、宮井を玄関に呼んだ後は一度も顔を出さず、特段宮井を叱る様子も慌てる様子も無かった。(その後どうなったかは知らないが)
- 10：とりあえず現段階では、「戸田の大勝利、ザイトク宮井将の大敗北」を大々的に宣伝しておくものである。
- 11：◆そうそう、この後、宮井賠償請求控訴審の「控訴趣意書」を作っているかねばならない。「50日以内」の締め切り日が1/25(土)になるので、1/24(金)に大阪高裁に提出する予定である。
なんとこの1/24は、「戸田の生誕58周年記念日」ではないか！
58才誕生日がザイトク宮井への控訴趣意書提出日とは、目出度いよう

【12/25支払い請求書】

【眼鏡窃盗破棄に関する賠償金の支払い
要求書】 2013年12月25日
(水)
(配達証明速達郵便で郵送)

宮井将 殿
(京都市東山区今熊野剣宮町4-1▲)
請求者：門真市議 戸田ひさよし

請求金額：7万7438円
(12/24分までの金利を合計して)
内訳：眼鏡代金=65300円
本年12/24までの金利=12138円 ※

- 1：この7万7438円を12/27(金)までに、全額、現金書留で、当方に送金せよ
- 2：分割、減免、支払い延期はいっさい認めない。
- 3：期限内に送金がない場合は、適法の範囲内で、最後の1円まで苛烈に、何度でも取り立てを行なう！

貴殿は、さる11月29日に大阪地裁民事第24部で、当方の眼鏡窃盗破棄の件で、
主文：

- 1 被告は原告に対し、金6万5300円及びこれに対する平成22年4月7日から支払い済みまで年5分の割合による金員を支払え。
- 3 この判決は、第1項に限り、仮に執行することができる

との賠償命令判決を受けたにも拘わらず、本日に至るまで当方に全く連絡を寄せず、支払いする意志のかけらも示していない。

その態度は、司法の判決をないがしろにし、被害者原告たる当方の感情を傷つけるものであり、不誠実極まりない。

よって、上記の金額を上記の方法と姿勢で支払い請求するものである。

なお、当方はさらに慰謝料50万円および訴訟費用の貴殿全額負担を求めて12月6日に控訴しており、大阪高裁での控訴審でも貴殿に対して厳しい処断を求めていく。以上。

※2011年・2012年・2013年の各4/6までの3年分=3265×3=9795円

2013年4/7~12/24までの262日分=3265×262/365=2343円

(小数点未満切り捨て)

- ・1年あたりの金利：65300×0.05=3265円
- ・1日あたりの金利(非うるう年)：3265×1/365=8.94円

(小数点3位以下切り捨て)

- ・送金日が12/24から1日遅れる事に1日